

女性ファッション誌から読み解く東アジア女性

山脇 佳那子

【指導教員：武庫川女子大学准教授 井上 雅人】

キーワード：ジェンダー、女性ファッション誌、東アジア、女性像

1. 研究の背景

1-1 社会的背景と研究の要因

ここ数年、訪日外国人が増え続けている。2017年1月～11月の訪日外国人数¹⁾は累計26,169,700人にも上る。多国籍の人々が行き交う街中で、東アジアの人々の、国籍間の違いが薄れてきているように思う。容姿やファッションからは、どこの国から来たのか判断がつかないほどである。しかし、そこには同じとは言いきれない違いがある。

また、男性よりも女性の方が、容姿の違いは顕著である。言語の違いではなく容姿から、東アジアの女性たちの文化や国籍の違いを知ることはできないのか、明らかにしたい。

1-2 調査方法と内容

各国の女性ファッション雑誌から、女性像を調査する。調査国は、日本、韓国、台湾とし、ターゲットは、結婚や仕事、育児等、ライフスタイルの変化で社会的影響を受けやすい30代女性とする。

現地発売の雑誌(表1)の、図像および文章内容を分析し、彼女たちの容姿が何を意味するのか、その国の社会や文化の影響をふまえて、各国の具体的な女性像と、その違いを導き出す。

1-3 日本人・韓国人・台湾人女性の地位とは

世界的にみてアジア人は、身長や体格が似ているため、一つのグループにカテゴライズされることがある。しかし「女子差別撤廃条約」、「世界女性会議」、「国際女性の日」などを通して²⁾、世界的に平等であると提唱されているにもかかわらず、女性の権利は各国で同じとは言えない。

1-4 日本人・韓国人・台湾人女性の容姿の変化

訪日外国人が日本人なのか、またはどこの国から来た人なのか、外見だけでは区別がつかない。その一番の理由は、同じ肌の色や目の色、髪色であるアジア人が、皆「洋服」を着ているからであろう。民族衣装から「洋服」へと、習慣が変化した現在の各国をみてみると、ファッションを楽しむ選択の余地と経済的余裕がみてとれる。そこには、「洋服」を着るといふ共通の文化があるともいえる。

2. 女性誌から読み解く女性像と定義

2-1 メディアの中の雑誌とは

「第四の権力」といわれるほど、メディアが人々に及ぼす影響力は大きい。その中でも雑誌は、専門性を特性とした、他媒体とは違う媒体といえる。

2-2 雑誌の存在と背景

『ファッション誌をひもとく』にて富川淳子は、雑誌が存

在するための条件は、「文化技術の発展」と「社会的環境の整備・安定」の2点であると述べている³⁾。現在、雑誌媒体が存在する日本、韓国、台湾は、上記に挙げた条件が揃っていることになり、また読者が、各国ともに女性がほとんどであることから、女性の教育制度が整っているといえる。

2-3 雑誌は時代を映す鏡～女性像と雑誌の関係性～

「雑誌は時代の鏡」⁴⁾——現代の女性誌に登場する女性たちは、実際の生活における女性たちの姿である。日本、韓国、台湾における現在の女性たちを知るためには、各国の雑誌を読み解く必要がある。またそれにより、各国の女性像を導き出すことができる。

3. 各国雑誌でみる特徴

3-1 表紙からわかる特徴

表紙は雑誌の顔である。

日本の「VERY」には、日本語で「リーマム」などの造語や、読者の買い物事情が大きく書かれているのに対し、韓国の「Women Sense(우먼센스)」は、英語表記が多い。韓国では、文字ではなく化粧品等の付録に、力を入れている現状だ。台湾の「BEAUTY 大美人」には、アンチエイジングに関する造語や、ファッション用語が書かれている。韓国、台湾ともに表紙は、現地で有名な女優である。(図1)

3-2 目次から読み解くコンテンツ傾向

目次を比べることで、コンテンツと編集力の違いがみえてくる。

日本の「VERY」は、全477ページと豊富なページ数だが、内容は家族や子育て、女性らしさに関するものが、ほとんどである。これに対し韓国の「Women Sense(우먼센스)」は、ファッションだけではなく、社会情勢など、様々な情報を掲載している。台湾の「BEAUTY 大美人」は、ファッションや容姿にまつわることのみで、言葉通りのファッション誌に、とどまったものといえる。

3-3 モデルを通して見る雑誌のなかの世界

雑誌に登場するモデルは、読者の求める姿である。

日本の「VERY」には、日本人で構成された専属モデル、読者モデルが登場する。その表情は笑顔である。韓国の「Women Sense(우먼센스)」は、韓国人と欧米人が登場するが、そのどちらもクールな表情が多い。これは、笑顔が評価される日本と、評価されない韓国の文化の違いによるものである。台湾「BEAUTY 大美人」の台湾人モデルたちは、表情がほとんど同じであり、読み取れることは少なかった。台湾における出版編集能力の低さに帰因している可能性もある。

3-4 微妙に食い違う各国のファッション

各国、同じ「洋服」を着ているものの、ファッション傾向は異なる。

日本はTPOが重要であり、目立たない配色を好む。「公園ブラック」などの造語もみられ、日本社会に馴染むような、独特のファッション傾向がみられる。これに対し韓国、台湾は、海外のファッション情報を掲載している。韓国は、コレクション情報や、流行色、柄の特集が生まれ、最新の流行が支持されるようだ。台湾も海外の情報を参考にしてはいるが、情報源は海外スナップ写真である。最新の流行よりも、現在の台湾で好まれそうなものが選ばれている。カラフルな配色が多く、30代という割には若い印象を受ける。

3-5 特集・コラムから読み解く日本・韓国人女性の特徴

日本人女性は「理想の母、女性」でありたいと悩む。幸福感に溢れていることを望み、それを女性の理想として提唱している。

韓国人女性は、「家族」間における人間関係に悩むことが多い。また現状を学び、競争に勝ち残ることができるように努める女性が多く、韓国の競争社会問題が浮かび上がる。

台湾の「BEAUTY 大美人」は、ファッションや容姿に関する情報のみであり、ここでは台湾人女性の悩みを深く知ることはできなかった。

4. 浮かび上がる各国の女性像

日本人女性は、日本社会における母、妻、女という性的役割を全て果たした姿を理想とし、その役割にふさわしいファッションを好む。自身が役割を十分にこなせていない場合、そのことで悩む女性が多い。

韓国人女性は、現在の韓国が競争社会であるためか、常に人よりも新しいものを求め、ファッションも流行のものを好む傾向がある。また、家族間の付き合いなど、伝統的慣習に悩まされる女性が多い。

台湾人女性は、明るい色や、健康美、若さを求める傾向がある。また、日本や韓国のように、女性としての立ち振る舞いや、他者との競争などの問題はなく、ファッションに関する独自性もほとんどみられない。

日本、韓国、台湾の女性たちの容姿は微妙ながらも違う。その違いから、各国の社会問題や、彼女たちの生き方の違いがみえてくる。

注及び参考文献

- 1) 日本政府観光局(JNTO), 2017年訪日外国人数
https://www.jnto.go.jp/jpn/statistics/since2003_tourists.pdf
- 2) 女性の世界的地位について: 内閣府男女共同参画局
http://www.gender.go.jp/international/int_kaigi/int_teppai/joyaku.html
- 3)4) 富川淳子: ファッション誌をひもとく, 北樹出版, 10-11, 2017

表1 各国対象雑誌比較表

	日本	韓国	台湾
雑誌名	VERY	Women Sense(우먼센스)	BEAUTY 大美人
ターゲット	30代~40代女性	30代~40代女性	30代OL女性
価格	720円(667円+税)	8,900ウォン(約887円)	100NTドル(約365円)
発行出版社	光文社	ソウル文化社	美人文化事業股份有限公司
形態	月刊誌	月刊誌	月刊誌
言語	日本語	朝鮮語(ハングル)	中国語(繁体字)
総ページ数	477頁(2017年11月号)	377頁(2017年11月号)	144頁(2017年11月号)
SNS	Facebook instagram twitter	Facebook instagram twitter	Facebook instagram twitter



図1 左:「VERY」 中央:「Women Sense(우먼센스)」 右:「BEAUTY 大美人」